

宮古島市下水道事業経営戦略概要版

1. 経営戦略見直しの経緯と位置づけ

下水道は、ゲリラ豪雨による浸水被害の増加、大規模地震などの災害に対応するため、その必要性が高まっています。ただ、将来的には人口減少等に伴う使用料収入の減少や、管渠及び施設の老朽化に伴う大量更新時期の到来などの経営環境の悪化が懸念されています。下水道事業を将来にわたって安定的に継続していくために、経営の基本計画として「経営戦略」の策定が必要とされています。

本市は、平成 30 年度に公共下水道事業の経営戦略を策定しました。また、令和 2 年度に農業集落排水事業、漁業集落排水事業の経営戦略を策定しました。その後、地方公営企業法適用に伴い企業会計方式に移行したことや公共下水道事業の策定から 5 年が経過したことから、これまでの取組を評価するとともに、令和 4 年度に作成した宮古島市下水道ストックマネジメント計画の反映、近年の物価上昇など社会情勢の変化を踏まえた実効性のある事業計画とするため、経営戦略を見直すこととしました。

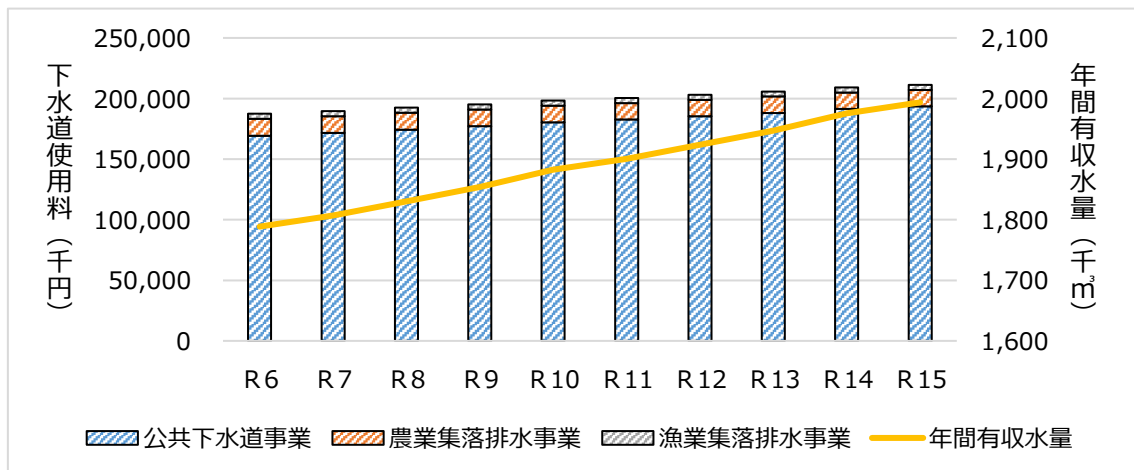
本経営戦略の策定期間は、算定数値の現実性等を考慮して「令和 6 年度(2024 年度)から令和 15 年度(2033 年度)」の 10 年間といたします。

2. 下水道事業の現状

施設	処理場の設備の多くが耐用年数を経過している。
	公共下水道の整備率が令和 4 年で 28.84%と低い。
	宮古島市浄化センターの汚水処理需要が増加しており、処理場の処理能力に限界が来ている。
経営	公共下水道事業と農業・漁業集落排水事業の料金体系が異なる。
	接続戸数減により、一般会計繰入金なしでは農業・漁業集落排水事業の継続が困難である。
	下水道事業運営の資金不足を一般会計繰入金で賄っているが、年々増加している。

3. 下水道事業の将来予測

今後の下水道使用料は、農業集落排水事業と漁業集落排水事業は徐々に減少していきますが、公共下水道事業は管渠整備により処理区域を広げることで接続者増に伴い使用料収入が増加し、令和 15 年度の下水道使用料収入は約 2.1 億円を見込んでおります。



4. 基本方針と目標

本市下水道事業は、以下の3つを基本方針とします。

1. 未普及地域の整備促進及び接続の促進（整備率、水洗化率向上）
2. 下水道施設の適切な維持管理（ストックマネジメント等による計画的実施）
3. 下水道事業経営の健全化（一般会計負担の軽減）

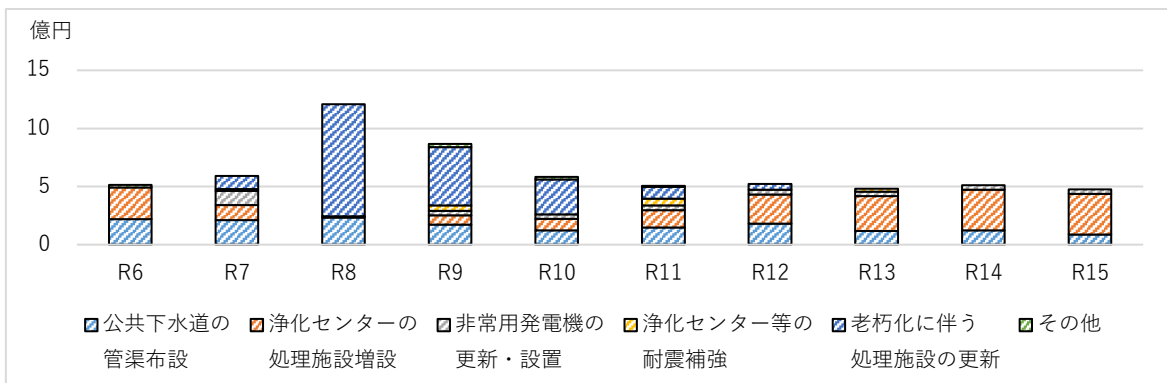
基本方針に沿って事業を実施した上での計画期間の目標は下記の5つです。

目標指標	令和5年3月 (実績)	令和11年3月 (中間目標)	令和16年3月 (目標)
整備率	44.72%	52.00%	60.00%
水洗化率	72.90%	74.00%	75.00%
経費回収率	58.13%	68.00%	88.00%
企業債残高	29.31 億円	33.61 億円	34.80 億円
一般会計繰入金 (基準外繰入金)	3.32 億円	2.00 億円	1.00 億円

5. 投資試算

計画期間内に以下の事業を見込んでいます。

事業内容	詳細内容	事業費
管渠布設	公共下水道普及のために引き続き整備を継続していきます。	16.13 億円
浄化センターの処理施設増設	下水道需要に対応するために処理能力強化として処理施設の増設を令和6年度までに行います。	19.83 億円
老朽化に伴う処理施設の更新	ストックマネジメント計画等に則り、処理場施設等について効率化、長寿命化を図ったうえで順次整備していきます。	20.31 億円
浄化センター等の耐震補強	大規模災害時に下水処理機能が停止しないように公共下水道の重要施設の耐震補強工事を行います。	1.47 億円
非常用発電機の更新・設置	各処理施設に非常用発電機を設置し、災害時の停電に対応できるようにします。	4.10 億円



6. 投資財政シミュレーション

投資財政シミュレーションの結果、「4. 基本方針と目標」の経費回収率、一般会計繰入金の目標数値が達成できておらず、一般会計繰入金は令和 15 年度時点で基準外繰入金が約 2 億円となっており、一般会計への負担が解消されていない状況となりました。

単位：千円

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
下水道使用料	170,568	172,477	174,902	177,368	180,306	182,258	184,683	187,127	190,094	192,018
当期純利益	42,737	31,723	51,213	82,556	64,625	71,034	55,931	52,604	56,650	49,118
一般会計繰入金	320,522	368,461	389,118	428,466	411,962	421,316	409,185	410,709	419,122	415,599
うち基準外繰入	177,887	204,431	226,688	256,833	235,726	240,725	223,040	217,588	219,316	209,931
経費回収率	49.9%	49.9%	49.8%	50.3%	51.2%	51.7%	52.4%	53.0%	53.8%	54.3%

7. 料金改定シミュレーション

6. 投資財政シミュレーションの結果、目標数値を達成できませんでした。経費回収率、一般会計繰入金（基準外繰入金）の目標数値を達成する要因として整備率と水洗化率を高水準にすることが考えられます。整備率と水洗化率を上げると水洗化人口が増えたことになり、下水道使用料収入が増え、一般会計繰入金を減らすことができます。ただし、水洗化人口が増えると汚水量も増えることで維持管理費も増加し、大きな改善とはなりません。

そこで、料金単価見直しによるシミュレーションをいくつかのパターンに分けて行いました。1 回目と 3 回目の料金改定は全事業を対象としたものであり、2 回目は公共下水道事業と農業・漁業集落排水事業の料金体系を統一するものです。

なお、本市公共下水道事業の家庭用使用料（20m³/月）は 1,463 円ですが、国は家庭用使用料 3,000 円（20m³/月）を目安として下水道使用料の適正化を要望しています。ただ、1 回での料金改定は利用者への負担が大きいため段階的な料金改定を前提としたシミュレーションを行いました。

改定パターン	料金改定率			備考
	R7 (1 回目) 全事業対象	R8 (2 回目) 農・漁業集排対象	R12 (3 回目) 全事業対象	
パターン 1	20%	公共と単価統一	20%	経費回収率約 80%
パターン 2	25%	公共と単価統一	25%	経費回収率約 85%
パターン 3	30%	公共と単価統一	30%	宮古島市目標値
パターン 4	45%	公共と単価統一	45%	国の推奨料金
パターン 5	60%	公共と単価統一	60%	経費回収率約 100%

パターン 1（20%改定）

単位：千円

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
下水道使用料	170,568	206,972	217,215	220,165	223,693	225,997	274,652	278,151	282,422	285,149
一般会計繰入金	320,522	330,517	344,688	384,103	367,037	376,062	313,116	316,389	323,569	319,290
うち基準外繰入	177,887	166,487	182,257	212,470	190,802	195,470	126,971	123,268	123,764	113,622
経費回収率	49.9%	60.1%	62.1%	62.7%	63.8%	64.3%	78.6%	79.5%	80.6%	81.4%

パターン 2 (25%改定)

単位：千円

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
下水道使用料	170,568	215,600	226,274	229,345	233,021	235,422	298,028	301,825	306,459	309,418
一般会計繰入金	320,522	321,026	335,253	374,574	357,362	366,293	288,008	291,832	298,670	294,170
うち基準外繰入	177,887	156,996	172,822	202,941	181,126	185,701	101,863	98,711	101,241	93,940
経費回収率	49.9%	62.6%	64.8%	65.4%	66.5%	67.1%	85.5%	86.5%	87.1%	87.1%

パターン 3 (30%改定)

単位：千円

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
下水道使用料	170,568	224,215	235,315	238,511	242,331	244,829	322,338	326,445	331,457	334,659
一般会計繰入金	320,522	311,549	325,835	365,060	347,706	356,541	261,873	266,291	272,775	268,045
うち基準外繰入	177,887	147,519	163,404	193,427	171,470	175,950	92,946	94,113	98,322	91,047
経費回収率	49.9%	65.2%	67.4%	68.1%	69.2%	69.8%	88.4%	88.5%	88.6%	88.7%

パターン 4 (45%改定)

単位：千円

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
下水道使用料	170,568	250,093	262,472	266,036	270,298	273,084	401,027	406,136	412,373	416,355
一般会計繰入金	320,522	283,084	297,549	336,488	318,698	327,253	177,134	183,616	188,958	183,487
うち基準外繰入	177,887	119,054	135,119	164,855	142,462	146,662	80,401	84,566	88,861	81,671
経費回収率	49.9%	72.9%	75.4%	76.2%	77.5%	78.1%	92.4%	92.4%	92.5%	92.6%

パターン 5 (60%改定)

単位：千円

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
下水道使用料	170,568	275,971	289,629	293,563	298,265	301,338	488,287	494,508	502,100	506,950
一般会計繰入金	320,522	254,618	269,262	307,914	289,691	297,966	82,967	91,930	96,013	89,718
うち基準外繰入	177,887	90,588	106,832	136,281	113,456	117,374	59,136	66,374	68,909	61,091
経費回収率	49.9%	80.7%	83.5%	84.3%	85.7%	86.5%	96.9%	97.0%	97.4%	97.5%

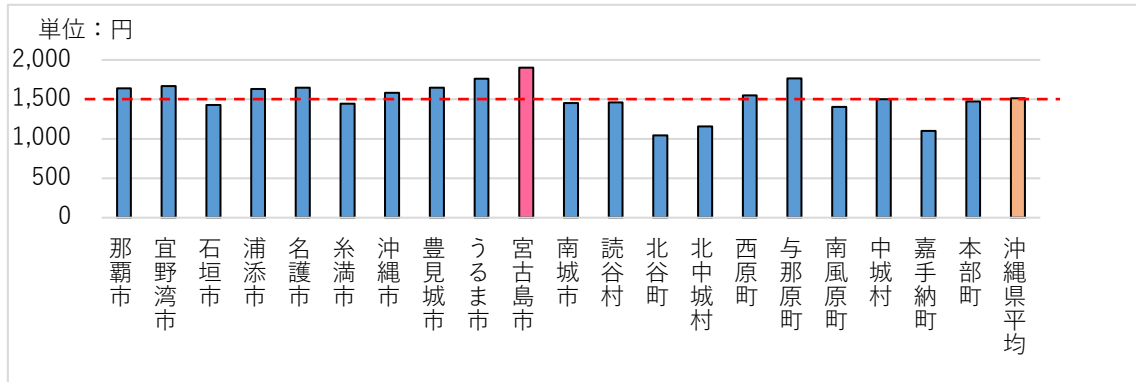
公共下水道 一般家庭用 1 カ月 20m³あたりの使用料 (税込み)

使用料 20m ³	現行料金	令和 7 年 (1 回目)	令和 12 年 (2 回目)
パターン 1	1,463 円	1,756 円	2,107 円
パターン 2		1,829 円	2,286 円
パターン 3		1,902 円	2,472 円
パターン 4		2,121 円	3,076 円
パターン 5		2,341 円	3,745 円

農業・漁業集落排水 一般家庭用 1 カ月 20m³あたりの使用料 (税込み)

使用料 20m ³	現行料金	令和 7 年 (1 回目)	令和 8 年 (2 回目:同水 準)	令和 12 年 (3 回目)
パターン 1	990 円	1,188 円	1,756 円	2,107 円
パターン 2		1,237 円	1,829 円	2,286 円
パターン 3		1,287 円	1,902 円	2,472 円
パターン 4		1,435 円	2,121 円	3,076 円
パターン 5		1,470 円	2,341 円	3,745 円

令和6年度他団体料金とパターン3との比較



パターン別試算の結果、独立採算の原則と受益者負担の原則の観点から考えるとパターン5が公営企業経営上は望ましいですが急激な利用者負担増となるため、一定の一般会計負担の軽減、利用者負担を考慮して、「パターン3」を本経営戦略の計画目標として採用します。令和7年度に30%の使用料改定、令和8年度に集落排水料金を公共下水道料金に一本化、令和12年度に30%の使用料改定を検討していきます。